

- 内積空間, 正規直交基底, 実対称行列の実直交行列による対角化, 二次形式を扱います.

双線形形式: $\mathbb{F}$ を体, V を $\mathbb{F}$ 線型空間とする. $I: V \times V \rightarrow \mathbb{F}$ が $\mathbb{F}$ 双線形形式とは

$$I(\lambda v_1 + \mu v_2, w) = \lambda I(v_1, w) + \mu I(v_2, w), I(w, \lambda v_1 + \mu v_2) = \lambda I(w, v_1) + \mu I(w, v_2)$$

となることをいう ($\lambda, \mu \in \mathbb{F}, v_1, v_2, w \in V$).

対称双線形形式: さらに $\forall v_1 \in V, \forall v_2 \in V, I(v_1, v_2) = I(v_2, v_1)$ となるとき, I は対称という.

内積: V を $\mathbb{R}$ 線形空間とする. V の内積とは, 対称 $\mathbb{R}$ 双線形形式 $I: V \times V \rightarrow \mathbb{R}$ であって, さらに以下の正値性 (positivity) をみたすものをいう ($\|v\| := \sqrt{I(v, v)}$ を v の長さという):

$$\forall v \in V \setminus \{0\}, I(v, v) > 0$$

内積空間: $\mathbb{R}$ 線形空間 V と, その内積 I の組 (V, I) を内積空間とよぶ.

直交補空間: 内積空間 (V, I) と部分線形空間 $W \subseteq V$ について

$$W^\perp := \{v \in V \mid \forall w \in W, I(v, w) = 0\}$$

を W の V における直交補空間とよぶ. $\dim W + \dim W^\perp = \dim V, (W^\perp)^\perp = W$ が成り立つ.

コーシー・シュワルツの不等式: 内積空間 (V, I) において, 以下の不等式が成立する.

$$\forall v_1 \in V, \forall v_2 \in V, |I(v_1, v_2)| \leq \|v_1\| \|v_2\|$$

$\mathbb{R}^n$ の標準内積: 数ベクトル空間 $\mathbb{R}^n$ に, $I(x, y) = x_1 y_1 + \cdots + x_n y_n = {}^t x y$ によって $\mathbb{R}$ 双線形形式を定義すると, これは $\mathbb{R}^n$ の内積になる. ここで $x = {}^t(x_1, \dots, x_n), y = {}^t(y_1, \dots, y_n)$ である.

正規直交系: 内積空間 (V, I) において, $v_1, \dots, v_n \in V$ は, $1 \leq i, j \leq n, I(v_i, v_j) = \delta_{i,j}$ となるとき, 正規直交系であるという. ここで $\delta_{i,j}$ はクロネッカーのデルタである.

(注): 正規直交系は線形独立である.

グラム・シュミット直交化法: (V, I) を内積空間, $a_1, \dots, a_r \in V$ が線形独立のとき, $c_i = b_i / \|b_i\|$ でえられる $c_1, \dots, c_r$ は正規直交系になる. 特に $a_1, \dots, a_r$ が基底であれば, $c_1, \dots, c_r$ は正規直交基底 (ONB, orthonormal basis) になる.

$$b_1 = a_1, \quad b_2 = a_2 - \frac{I(a_2, b_1)}{I(b_1, b_1)} b_1, \quad b_3 = a_3 - \frac{I(a_3, b_1)}{I(b_1, b_1)} b_1 - \frac{I(a_3, b_2)}{I(b_2, b_2)} b_2, \dots$$

実直交行列: $n \times n$ 実行列 P は $P^{-1} = {}^t P$ となるとき, 実直交行列とよばれる. $A = (p_1, \dots, p_n)$ と列ベクトル $p_1, \dots, p_n \in \mathbb{R}^n$ を用いて表示すると, P が実直交行列であることと, $p_1, \dots, p_n$ が $\mathbb{R}^n$ の ONB であることは同値である.

実対称行列の実直交行列による対角化：実対称行列 A の固有値は実数になり，さらに実直交行列 P により対角化可能である．

(注)：実対称行列 A の固有値が実数になるのは， $A = {}^t A$ であるからというよりも， $A = \overline{{}^t A}$ (エルミート行列) であることが本質的である．

(注)：上で P は次のようにして求めればよい．

1. A は対角化可能なので， $Q^{-1}AQ$ が対角行列になるような実可逆行列 $Q = (\mathbf{q}_1, \dots, \mathbf{q}_n)$ が存在する
2. $\mathbf{q}_1, \dots, \mathbf{q}_n$ にグラム・シュミット直交化を施して， $\mathbf{p}_1, \dots, \mathbf{p}_n$ をえたとすると $P = (\mathbf{p}_1, \dots, \mathbf{p}_n)$ とすればよい

正定値： $n \times n$ 実対称行列 A は

$$\forall \mathbf{x} \in \mathbb{R}^n \setminus \{\mathbf{0}\}, {}^t \mathbf{x} A \mathbf{x} > 0$$

をみたすとき正定値 (positive definite) とよばれる．

正定値判定法： $n \times n$ 実対称行列 A について以下はすべて同値である．

1. A は正定値
2. A の固有値がすべて正
3. $1 \leq k \leq n, \det A_k > 0$ (ここで A_k は A の $1 \sim k$ 行・列からなる $k \times k$ 部分行列である)

1 演習問題

(A1) $\mathbb{R}^4$ に標準的な内積を入れる。 V を

$$\begin{pmatrix} 1 \\ -1 \\ -1 \\ 1 \end{pmatrix}, \begin{pmatrix} 1 \\ -1 \\ 1 \\ -1 \end{pmatrix}$$

で生成される $\mathbb{R}^4$ の部分ベクトル空間とする。このとき V の $\mathbb{R}^4$ における直交補空間 W の基底を 1 組求めよ (平成 25 年度京大大学院入試より)。さらにそれを ONB にせよ。

(A2) 標準的なユークリッド内積 $\langle, \rangle$ が与えられた実線型空間 $\mathbb{R}^4$ において，次のベクトル $\mathbf{v}_1, \mathbf{v}_2, \mathbf{v}_3, \mathbf{v}_4$ で張られる部分線型空間を W とする．

$$\mathbf{v}_1 = \begin{pmatrix} 1 \\ 1 \\ -2 \\ 0 \end{pmatrix}, \mathbf{v}_2 = \begin{pmatrix} 1 \\ -1 \\ 0 \\ -2 \end{pmatrix}, \mathbf{v}_3 = \begin{pmatrix} -2 \\ 1 \\ 1 \\ 3 \end{pmatrix}, \mathbf{v}_4 = \begin{pmatrix} -1 \\ 2 \\ 1 \\ 3 \end{pmatrix}$$

1. W とその直交補空間 $W^\perp$ の基底をそれぞれ 1 組求めよ (2008 年度名大大学院入試より)．

2. W とその直交補空間 $W^\perp$ の正規直交基底をそれぞれ 1 組求めよ.

(A3) 2×2 の実直交行列 P は, 適当な $\theta \in \mathbb{R}$ を用いて $P = \begin{pmatrix} \cos \theta & -\sin \theta \\ \sin \theta & \cos \theta \end{pmatrix}$ または $P =$

$\begin{pmatrix} \cos \theta & \sin \theta \\ \sin \theta & -\cos \theta \end{pmatrix}$ となることを示せ.

(A4) 2 次曲線 $2x^2 + 4xy - y^2 = 1$ は楕円・双曲線のいずれになるか論じなさい.

(A5) 対称行列

$$A = \begin{pmatrix} 2 & -1 & 1 \\ -1 & 2 & -1 \\ 1 & -1 & 2 \end{pmatrix}$$

に対して, tPAP が対角行列となるような直交行列を 1 つ求めよ (2008 年度名大大学院入試より).

(A6) 以下の問に答えよ.

1. 対称行列

$$A = \begin{pmatrix} 2 & 1 & -2 \\ 1 & 2 & -2 \\ -2 & -2 & 1 \end{pmatrix}$$

に対して, tPAP が対角行列となるような直交行列を 1 つ求めよ (2008 年度名大大学院入試より).

2. 3 変数関数

$$f(x, y, z) = 2x^2 + 2y^2 + z^2 + 2xy - 4xz - 4yz = (x, y, z)A \begin{pmatrix} x \\ y \\ z \end{pmatrix}$$

に対して, $\frac{f(x, y, z)}{x^2 + y^2 + z^2}$ ($(x, y, z) \neq (0, 0, 0)$) の上限および下限

$$\sup \left\{ \frac{f(x, y, z)}{x^2 + y^2 + z^2} \mid x, y, z \in \mathbb{R}, (x, y, z) \neq (0, 0, 0) \right\}$$

$$\inf \left\{ \frac{f(x, y, z)}{x^2 + y^2 + z^2} \mid x, y, z \in \mathbb{R}, (x, y, z) \neq (0, 0, 0) \right\}$$

を求めよ (2008 年度名大大学院入試より).

(A7) 対称行列 $A = \begin{pmatrix} a & b \\ b & a \end{pmatrix}$ において

$$a > 0, b > 0, a + b = 1$$

とする.

1. 行列 A の固有値と固有ベクトルを求めよ.

2. 任意のベクトル $\mathbf{v} = \begin{pmatrix} x \\ y \end{pmatrix} \in \mathbb{R}^2$ に対して

$$\lim_{n \rightarrow \infty} A^n \mathbf{v} = \frac{x+y}{2} \begin{pmatrix} 1 \\ 1 \end{pmatrix}$$

が成り立つことを示せ (2007 年度名大大学院入試より).

- (A8) 行列 A の転置行列を tA で表す. $n \geq 2$ を整数として, n 次の実対称行列 A が正値であるとは, 任意の列ベクトル $u \in \mathbb{R}^n \setminus \{0\}$ に対して ${}^t u A u > 0$ が成り立つことをいう. 以下の間に答えよ.

1. B を実正則行列とすると, $A = {}^t B B$ は正定値実対称行列であることを示せ.
2. A を正値実対称行列とすると, $A = {}^t B B$ となる実正則行列が存在することを示せ (2014 年度名大大学院入試より).

- (A9) 行列, ベクトルは実数成分であるものとし, ベクトル $\mathbf{v}$ の大きさを $\|\mathbf{v}\|$ で表す. 以下の間に答えよ.

1. 行列

$$A = \begin{pmatrix} 3 & 1 & 1 \\ 1 & 3 & 1 \\ 1 & 1 & 5 \end{pmatrix}$$

の固有値と固有ベクトルを求めよ. ただし, 固有ベクトルは単位ベクトルとし, 第一成分は非負とする.

2. $\mathbf{x} \in \mathbb{R}^3, \mathbf{x} \neq \mathbf{0}$ なら $A\mathbf{x} \neq \mathbf{0}$ となることを示せ.
3. $\mathbf{x} \neq \mathbf{0}$ のとき

$$F(\mathbf{x}) = \frac{A\mathbf{x}}{\|A\mathbf{x}\|}$$

とする. (a) で求めた固有値を $\lambda_1, \lambda_2, \lambda_3$ ($\lambda_1 \geq \lambda_2 \geq \lambda_3$), 対応する単位固有ベクトルをそれぞれ $\mathbf{e}_1, \mathbf{e}_2, \mathbf{e}_3$ とする. $a_1, a_2, a_3 \in \mathbb{R} \setminus \{0\}$ に対し

$$\mathbf{x}_0 = a_1 \mathbf{e}_1 + a_2 \mathbf{e}_2 + a_3 \mathbf{e}_3, \quad \mathbf{x}_{n+1} = F(\mathbf{x}_n)$$

でベクトルの列 $\{\mathbf{x}_n\}_{n=0}^{\infty}$ を帰納的に定義する. $\mathbf{x}_n$ を $\mathbf{e}_1, \mathbf{e}_2, \mathbf{e}_3$ の一次結合として表示し, 係数を a_1, a_2, a_3 で表せ.

4. (c) で与えた $\{\mathbf{x}_n\}_{n=0}^{\infty}$ に対し極限 $\lim_{n \rightarrow \infty} \mathbf{x}_n$ が存在し, A の固有ベクトルになることを示せ (2011 年度名大大学院入試より).

- (A10) $x^2 + y^2 + z^2 = 1$ という条件のもとで, 実 2 次形式 $Q(x, y, z) = ax^2 + by^2 + cz^2 + 2fyz + 2gzx + 2hxy$ の最大値を M とすれば, M は λ に関する方程式

$$\begin{vmatrix} a - \lambda & h & g \\ h & b - \lambda & f \\ g & f & c - \lambda \end{vmatrix} = 0$$

の解になっていることを証明せよ (2017 年度阪大大学院入試より).